市民連合＠愛知シンポジウム

久しぶりに、名古屋・栄に行った。ここは名駅前と違い広々とした感じであり、空を見渡せるのがよい。「オアシス」近くの椅子に座り、ぼんやり空を眺めた。テレビ塔とオアシスの「とりあわせ」もなかなかのものだ。

栄にやって来たのは、中区役所ホールで行われる、表題のようなシンポジウムに参加するためだ。「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合＠愛知シンポジウム」である。広い会場はほぼ満員となり、いつもの年配者だけでなく、若い人の参加もあって嬉しくなった。

まず山口二郎・法政大学教授が「戦後憲法体制の危機をいかに打開するか」と題して基調講演した。山口さんの著書や論文を数多く読んできたが、こうして直接話を聞くのは初めてである。軽やかな調子で、鋭く問題点を突く講演であった。

話は「アベ化する世界とイヤな時代」からはじまる。「イヤな時代」として、戦争できる国になった日本、メディアの抑圧と情報の隠蔽、国民に対する画一化の押しつけをあげる。

戦後憲法体制について、憲法のなかで天皇制と９条、「岸―安倍一家の復讐」などを話題にする。今や自己目的化する憲法改正の動きのなかで、「2015 年安保」の戦後史的な意味として、社会レベルの民主主義の出現をあげる。

夏の参院選＝2016 政治決戦は、安倍流改憲に道を開くのか、立憲主義と民主主義を守るのかが問われる。そのために、野党結集と市民結集、与党の野望を打破するための戦略的投票行動の必要性をよびかける。

先の北海道５区衆院補選の政治学者らしい「分析」も興味深かった。与党の支持率がまだまだ高いなかでは、幅広い投票拡大が欠かせない。

まさに写真のように「GO VOTE」である。

基調講演のあと、参院選予定候補者と山口さんらによる「ディスカッション」に移る。全候補者に呼びかけたというが、野党の民進党・共産党・社民党から４人が参加した。新鮮な候補者も多く、政治への熱意が感じられた。これも参院選に向けて「野党結集」などを考えるうえで興味深く聞くことができた。

（2016 年４月 30 日）